

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 1】

<エントリーシート> ※事務局記入欄 No. : A - 26		部門 1. 研修成果活用 部門 平成 30 年度第 1 回中堅教員研修	学校名・氏名 千葉大学教育学部附属小学校 石井 桃子
		活動名 : 教職員の強みを生かし、考え合う場としての校内研修を目指して ~学年ごとのカリキュラム・マネジメントの視点をもとに~	

課題の設定 : 【本校の特色】 (○強み ●弱み)

【教科研究が主となる学校の研究体制】全教科・領域の部会があり、一人一部会に属している

- 一つの教科を専門的に研究してきている教師が多い
- 研究教科の異なる教師が学年に配置されている
- 研究教科以外の教科に関する情報の共有機会が少ない
- 教科研究の視点は強いが教科横断的な視点は弱い

【中堅~若手教員が多い】20 代後半~40 代前半の教員が教職員の 80% を占めている

- 各々が自分の力で学級経営できる力をもっているため、学級ごとの児童の実態に合わせた取り組みができる
- 授業や行事に対して、常に全力で取り組もうとする
- 学年としてどのような児童を育てていくか、そのために何をすべきか等を共有する必要感が少ない
- 教師の多忙化により、明日の授業、目の前の行事に取り組むことで精一杯のため、学びのつながりや行事等を見据えた取り組みが難しい

方針・計画 : 上のような強みを生かした校内研修ができないだろうか考え、次のような取り組みを試みた。
 校内研修の目的を「教科横断的な視点でカリキュラム・マネジメントを行い、担当する学年の教育活動の充実を図る」と設定し、取り組むこととした。これは、次のような効果をねらうものである。

- ・カリキュラム・マネジメントを行うことで、行事や日々の授業、さらには次の学年への展望を踏まえた長期的な視点で学習活動を行うことができ、**効率的に児童の学びを深めることができる** だろう
- ・教科横断的な視点を打ち出すことで、**各教科の専門性をもつ教師の強みを共有できる** だろう
- ・各学年で行うことで、各学年の児童の実態や教師の専門性、行事等に沿った **学年独自のカリキュラム・マネジメントを行うことができる** だろう

活動内容 :

①全職員が研修に取り組める研修体制の在り方を提案

全職員が研修に取り組んだり、日常的に意識したりできる研修体制を整えた。具体的には、各学年に 1 人研修部員を配置し、研修部員をリーダーに各学年の経営方針と関連させたカリキュラム・マネジメントの検討、実施、振り返りを行うこととした。また、研修部員は定期的な研修部座談会に参加し、他学年の進捗状況を知る機会を設け、その結果を週一回の学年会等で共有してもらうよう、促した。さらに、提案では、【教科横断的な視点でのカリキュラム・マネジメント】のイメージがわくよう、具体的な例を視覚化して示した。

3. カリキュラム・マネジメントのイメージ (あくまでも、一例)

【5年生の学年会兼研修会で】

何に対しても直線で、子どもらしい児童が多いね。でも一方で、流されやすいところもあるのが心配。

スマートフォンも子ども出てきて、インターネットや SNS を使う機会が増えるだろうね。

ただ受け止めるだけではなく、自分で考えて、的確に判断できる。子どもを育てたいね。

5年の国語の【新聞を読む】単元で、批評的に読む学習をさせたいな。

5年の社会科見学の、NHKに行けるよ。その時期と合わせられると、学びが深まりそうだね。

学年懇談会や、学級懇談会、学年だよりなどでも話題にして、保護者も巻き込んでみようよ。

6年の社会に【情報を生かすわたしたち】という単元があるな。牛かきないかな。

大学の先生に【協力してもらってメディアリテラシーの授業をしてもらうのもいいかも！】

どの実践を、いつ行えば、子どもの学びがつかえるかな。【教科等横断的な視点】保護者や地域にも活用できる物や人材がありそうだな【社会に開かれた教育課程】規定通り学びのつながりがあったか、実践を見合って評価・改善しよう。

だとすると、5学年の今年のテーマは【メディアリテラシー教育】なんてどうかな。

②考える場としての校内研修

夏休みの研修全体会として、まずはカリキュラム・マネジメントについて全体で確認した。次に、同学年の教師を単位としたグループで、カリキュラム・マネジメントの構想を練る時間を設けた。グループには担任だけではなく、その学年を担当している専科教諭や、低学年指導者、教務部教員等も配置し、様々な教科・年齢で話し合いができるようにした。また、各学年には、「学校経営のグランドデザイン」「各教科領域等の年間指導計画」「年間行事予定」「カリキュラム・マネジメントの方法例」等を配布し、それらを参考にしながら、各学年が夏休み以降行うカリキュラム・マネジメントについて、図にまとめていった。最後に、各学年の考えを発表し合い、共有する場とした。

★全体で【カリキュラム・マネジメント】の意義を確認

- ・授業時数の不足解消や働き方改革の一つの解決方法
- ・各学年の特色ある学習活動に理論付けることができる
- ・汎用性のある資質・能力」を育成する視点

★各学年での話し合いの様子 (第 2 学年)

特別活動を定期的に学年で行うのはどうですか

国語の学習でも、互いのクラスを相手に、本などを紹介する活動を取り入れられ

カリキュラム・マネジメントを行うよさってなんなんですか

カリキュラム・マネジメントの目的がはっきりしないなあ

来年は、3年生。初めての学級解体が待ち受けているね。新たな学級を上手にスタートできるといいな

学級だけではなく学年を意識して交流できるように、今から育てていきたいですね

★話し合いを可視化し、テーマや構想を決定

★各学年の構想を共有

3年生は「気付く力」を学年全体で育みたい資質・能力に設定しました。

単に時数をカットするだけが、カリキュラム・マネジメントではないとすると、もう一度考え直す必要があるなあ

うちの学年は、4月に保護者に提案した学年経営方針をそのまま使えるな。でも、途中でカリキュラムを変更することもできるんだな

活動の成果 :

【教科横断的な視点でのカリキュラム・マネジメント】を校内研修の柱とし、各学年の教師の実態、児童の実態に即した取り組みを考えていく活動を通して、それぞれの強みをもとにした各学年ならではの取り組みを見出すことができた。また、中堅の教員にとっては、若手と共に学年を運営していく柱として、若手の教員にとっては、行事や他教科との連携を見据えた授業づくりの視点として、カリキュラム・マネジメントの視点が活かされていた。その結果、中堅も若手も同じ方向を見て、共に児童の資質・能力を育もうとする姿が見られた。

アピールポイント (アイデアや工夫) :

- 「つくりながら学ぶ」形を校内研修で取り入れたことで、受動的な研修から能動的な研修へ
- 【カリキュラム・マネジメント】の視点を柱に置くことで、中堅教員も若手教員も同じ土台に
- 【教科横断的な視点】を打ち出すことで、それぞれの強みを生かすことができる